

モンゴル帝国と朝鮮半島

2019年度インターゼミ アジア・ダイナミズム班

学部生	: 藤山拓海、和泉遼、押見正明、小出幹、柳沢悠介、杉浦左京
大学院生	: 越田辰宏、野々宮正晃、半田敏章、山崎理詩、浅賀誠、宮北靖也
卒業生・修了生	: 光永和弘、塚原啓弘、和泉昌弘、三好瑛大
指導教員	: 金美德、水盛涼一、小林昭菜

研究方法

- ✓文献研究、フィールドワークを中心に行う
- ✓2017年(モンゴル帝国のユーラシア興隆史)、2018年(モンゴル帝国の興隆と衰退)をモンゴル帝国そのものに焦点をあてていた。2019年は朝鮮半島とりわけ高麗との繋がりを通して分析を深めていく。
- ✓歴史的観点、経営組織論、国際経営論からも分析を加えていく。
- ✓フィールドワークは福岡県の九州大学を中心にヒヤリングを実施予定。
- ✓従って、10～14世紀の400年のモンゴル帝国・高麗の歴史を研究対象とする。

前年までの振り返り

2017年・2018年 論文の結論

2017年

モンゴル帝国の
ユーラシア興隆史

モンゴル帝国が現代にもたらすもの

1. 「経済連携」による「平和と安定」
2. リーダーの「思想」と「視野」: イル(仲間)になる思想・多様性の受容

2018年

モンゴル帝国の
興隆と衰退

新たな発見

1. モンゴル帝国は現代にまで「ソフト面」を遺した
2. モンゴル族はアイデンティティが薄いから世界統一できた

得られた示唆

1. 歴史は繰り返す: ゆるやかな統治の限界点
2. 拡大から縮小過程の生き方: 成長だけではない生き方
3. リーダーの資質: 資質とガバナンスの低下

前年までの振り返り

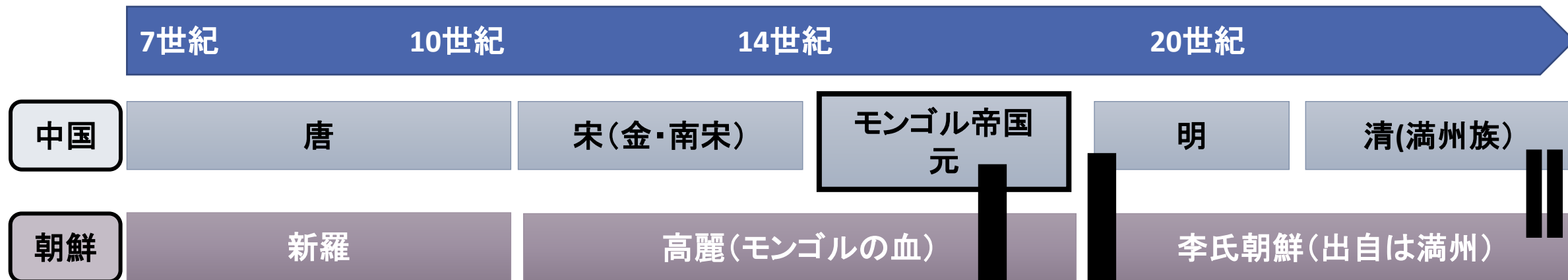
残された課題

1. モンゴル人とは誰か・何をもってモンゴル帝国とするのか。モンゴル帝国・モンゴル人のアイデンティティとは。
2. 少数民族のモンゴル族が、多数派の漢民族をゆるやかな統治だけで支配できたと言われている。本当に出来ていたのか。満州族による漢民族支配の大清帝国との共通点はあるのか。
3. モンゴル帝国崩壊後、北元として生きたモンゴル族の明～清朝末期までの影響力はどのようなものであったか。
4. モンゴル帝国崩壊後の、モンゴルの血が流れる属国・高麗(朝鮮)の動きによって、モンゴル(北元)の復権はあり得たのか。中国属国の歴史・朝鮮のモンゴル帝国時代とは。

朝鮮半島とモンゴル帝国・中国

残された課題を研究するために、

モンゴル帝国、元と深い関係を持つ高麗にフォーカスを当てる



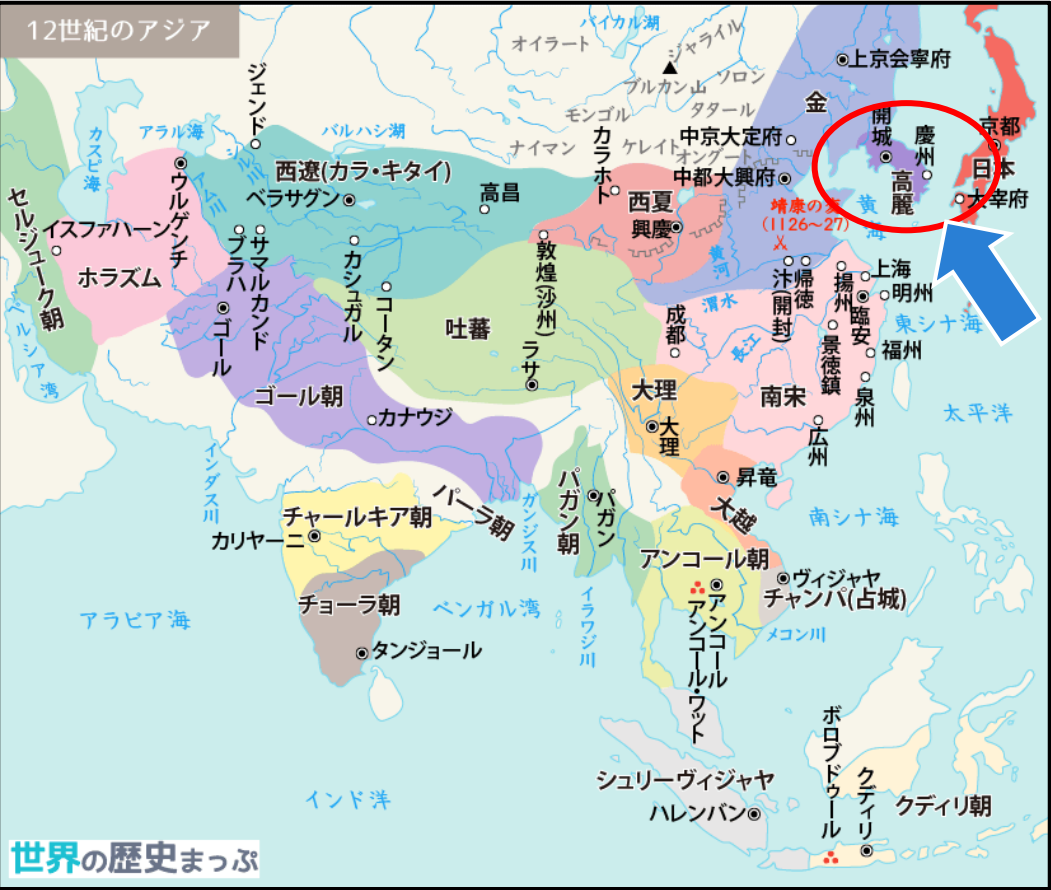
① 中国の「属国」であり続けた朝鮮の歴史：切り離せない隣国

② モンゴルの血：クビライ・カーンの娘に始まるモンゴル皇族と高麗王家の通婚

③ 明を選ぶかモンゴル(北元)を選ぶか：明を選んだ朝鮮。モンゴルを選んでいたら...

12世紀～13世紀のアジア地図

12世紀のアジア



13世紀のアジア～モンゴル帝国



出展：世界の歴史マップ

問題意識

1. なぜ、モンゴル帝国が高麗に対する侵攻を29年間継続した理由は何か。29年間、断続的に侵攻が継続された直接的な理由を見つけるに至っていない。そこで、当時の高麗を地理的側面や国民の暮らし、産業等を通じて明らかにすることにより、侵攻の理由を探る。

担当 野々宮正晃

2. なぜ、高麗の内部分裂が起きる前に日本との同盟を組むことはできなかったのか。
3. なぜ、林えんは高麗と元の関係性が良くない中、高麗内部で対立を図ったのか。
4. なぜ、高麗の受身体制が目立つが南宋や隣国との協力関係は築けなかったのか。

担当 山崎理詩

5. なぜ、敵対していたモンゴルと講和したのか。またその手法について。
6. なぜ、滅亡した大国もある中で生き残りに成功したのか。またその手法について。

担当 半田敏章

問題意識

7. なぜ、元は元の制度を採り入れる事で、軍事力と官僚人事掌握を高麗王に集中するのを予測していたか。高麗ならよしと考えていたか。

担当 浅賀誠

8. なぜ、元が高麗を支配したのか。どのような意味があったのか。
9. なぜ、元と元に支配された高麗の間で活発な交流が始まったのか。また、その結果どのような変化があったのか。
10. 現代とどのような共通点があり、どのように活かすことが出来るか。

担当 宮北靖也

論文目次

1章 問題意識

2章 モンゴル帝国の興隆と衰退から高麗へ

1. モンゴルの興隆史
2. モンゴルの衰退史
3. モンゴル帝国、大清帝国における少数民族による漢民族統治の鍵(光永)
4. モンゴルにおけるアイデンティティの萌芽(塚原)
5. モンゴル帝国衰退の陰に存在する朝鮮とは(光永)
6. 高麗の歴史

3章 モンゴル帝国と朝鮮半島

1. 高麗侵攻の背景(野々宮)
2. 高麗と日本、または周辺国との関係性(山崎)
3. 高麗の知恵と柔軟性(半田)
4. 高麗の政治体制と人口流入(浅賀)
5. モンゴル帝国と高麗の経済交流とその発展(宮北)

4章 結論

フィールドワーク予定

① 訪問先: 福岡県福岡市博多区周辺

② 日程: 8/26～8/28 (2泊3日)

③ 人数: 11人

④ ヒヤリング先: ① 九州大学 比較社会文化研究院 社会情報部門 歴史資料情報講座

伊藤 幸司 准教授

■東アジアの歴史についてヒアリング予定

② 九州大学 人文科学研究院 歴史学部門 朝鮮史学講座

森平 雅彦 教授

■高麗史を中心にモンゴル帝国・元との関係についてヒアリング予定

フィールドワーク予定

⑤ 訪問予定:

① 萬松山 承天寺

福岡に滞在していた謝国明ら中国商人が1241年に建立

② 大楠様

上記の謝国明の墓であった楠の跡

③ 横岳山 崇福寺

1240年に湛慧が開基、1241年に聖一国師円爾が開堂演法。

④ 元寇史料館

1986年(昭和61年)に移転して再オープン

⑤ 遺跡元寇防塁

西南学院大学改築工事中に出土。

⑥ 安国山 聖福寺

1195年の栄西の創建。栄西は日本で臨済宗を始めた。

⑦ 九州国立博物館

東京・京都・奈良につづく4つめの国立博物館として2005年に開館。

⑧ 筥崎宮

亀山上皇がモンゴルへの勝利を祈願し、醍醐天皇の「敵国降伏」の宸筆を下賜したという。今も扁額「敵国降伏」が本殿や宝物殿に残る

⑨ 太宰府天満宮

919年に竣工した菅原道真をまつる神社。

⑩ 坂本八幡宮

大宰府政庁跡の近くにある神社。正三位大宰帥として728年に京都から左遷された大伴旅人の官舎があった場所

11 神感山 顕孝寺

大友氏の祖先、大友貞宗が1330年ごろに闡提正具を開山として開いた

年間スケジュール(春)

	月	日	議 題	文献調査	フィールドワークFW	備 考	議事録
1	4月	13	初回学長講話				宮北
2		20	自己紹介・班検討				宮北
3		27	テーマ方向性 1200-1900年のモンゴル・中国・朝鮮半島・日本・ロシア	次回ベース文献疑問など報告	FW訪問先決定		宮北
4	5月	11	分担発表	次回ベース文献疑問など報告		年間スケジュール	宮北
5		18	分担発表	文献集計・目次	FW訪問先決定		藤山
6		25	分担発表 研究計画発表PPT確認	文献集計・目次			小出
7	6月	1	分担発表 研究計画発表PPT確認				和泉(遼)
8		8	◎研究計画中間発表1日目	研究テーマ、目的、問題意識、目次、文献、フィールドワーク	〇〇時集合		—
9		15	◎研究計画中間発表2日目	研究テーマ、目的、問題意識、目次、文献、フィールドワーク	〇〇時集合		—
10		22	研究計画発表反省 中間発表に向けた計画				柳沢
11		29	箱根合宿発表目次立て	中間発表に向けた討議			押見
12	7月	6	分担発表				野々宮
13		13	分担発表				半田
14		20	箱根合宿発表PPT確認				山崎
	7月		7/31(水)-8/1(木) 夏合宿(箱根)中間発表	●発表者(役割分担): 1研究概要、2目次、3 内容、4参考文献・研究計画・FW ●日程案: (1日目) (2日目) (連絡:学長室 高野takano@tama.ac.jp)			—
			合宿先: 箱根水明荘(箱根町湯本702)TEL.0460-85-5381(代) http://www.suimeisou.com/access/index.htm				—
	8月	下旬	8月下旬 福岡フィールドワーク 詳細未定	九州大学など訪問予定			—
							—

年間スケジュール(秋)

15	9月	21					浅賀
16		28					光永
17	10月	5	分担発表	各執筆原稿の発表(状況報告)			塚原
18		12	分担発表	各執筆原稿の発表(状況報告)			和泉(昌)
19		19	分担発表	各執筆原稿の発表(状況報告)			成田
20		26	分担発表	各執筆原稿の発表(状況報告)			宮北
21	11月	2	PPT・論文推敲全体確認				
		9	講義なし(学園祭)			多摩大学学祭	
22		16	PPT・論文推敲全体確認				
23		23	講義なし				
24		30	PPT・論文 AL祭・最終発表 に向けて				
25	12月	7	PPT・論文 AL祭・最終発表 に向けて				
26		14	アクティブラーニング(AL)祭	アクティブラーニング(AL)祭			
27		21	論文提出				
28	1月	5	講義なし(冬期休業日)				
		11	2018年度最終講義				
29		18	センター試験(講義なし)	最終論文(完成版)提出日			
30		25	懇親会(年度最終日)				
授業回数 計30回(前期:14回 後期:13回)							

参考文献<書籍>

計 36冊

1. 矢木 毅、森平雅彦『モンゴル覇権下の高麗-帝国秩序と王国の対応-』(名古屋大学出版会,2013)
2. 尹 龍燦『韓国における最近の三別抄遺跡の調査と研究』(韓国研究センター年報 13, 1-6,2015)
3. 森平雅彦『モンゴル帝国の覇権と朝鮮半島』(株式会社山川出版社,2016)
4. 河上麻由子『古代日中関係史』(中央公論新社,2019)
5. 杉山正明『モンゴル帝国の興亡<上>軍事拡大の時代』(講談社現代新書,1996)
6. 岡田英弘『世界史の誕生～モンゴルの発展と伝統』(ちくま書房,1999)
7. 白石典之『モンゴル帝国誕生 チンギス・カンの都を掘る』(講談社,2017)
8. 杉山正明『クビライの挑戦』(講談社学術文庫,2010)
9. 杉山正明『モンゴル帝国と長いその後』(講談社学術文庫,2016)
10. 宮脇淳子『モンゴルの歴史～遊牧民の誕生からモンゴル国まで』(刀水書房,2002)
11. 岡田英弘『モンゴルの興亡』(ちくま書房,2001)
12. デイヴィッド・モーガン『モンゴル帝国の歴史』(角川選書,1993)

参考文献<書籍>

13. 真野俊樹『こんな医者ならかかりたい～最高のかかりつけ医の見つけ方』(朝日新書,2015)
14. 小長谷有紀 著『暮らしがわかるアジア読本 モンゴル』(河出書房新社,1997)
15. 金岡秀郎『モンゴルを知るための65 章(第2 版)』(明石書店,2012)
16. 松川 節『図説 モンゴル歴史紀行』(河出書房新社,1998)
17. 早稲田大学モンゴル研究所『モンゴル史研究 現状と展望』(明石書店,2011)
18. 岡洋樹、境田清隆、佐々木史郎『東北アジア(朝倉世界地理講座—大地と人間の物語—2)』(朝倉書店,2009)
19. 岡田英弘『世界史の誕生』(筑摩書房,1992)
20. 杉山正明『大モンゴルの世界 陸と海の巨大帝国』(角川書店,1992)
21. ユ・ヒョチョン、ボルジギン・ブレンサイン『境界に生きるモンゴル世界—20 世紀における民族と国家』(八月書館,2009)
22. 小長谷有紀『モンゴル草原の生活世界』(朝日新聞社,1996)
23. 風戸真理『現代モンゴル遊牧民の民族誌 ポスト社会主義を生きる』(世界思想社,2009)
24. 藤田昇、加藤聡史、草野栄一、寺田良介『モンゴル 草原生態系ネットワークの崩壊と再生』(京都大学学術出版会,2013)
25. 芝山豊、岡田和行『モンゴル文学への誘い』(明石書店,2003)
26. ハイシツヒ著、田中克彦訳『モンゴルの歴史と文化』(岩波書店,2000)

参考文献<書籍>

27. 菅沼晃『モンゴル仏教紀行』(春秋社,2004)
28. 杉山正明等共著『NHKスペシャル文明の道⑤モンゴル帝国』(日本放送出版協会,2004)
29. ジャン・ポール・ルー著 杉山正明訳『チンギス・カンとモンゴル帝国』(創元社,2003)
30. 杉山正明『ユーラシアの東西』(日本経済新聞出版社,2010)
31. 張東翼『モンゴル帝国期の北東アジア』(汲古書院,2016)
32. 森平雅彦『モンゴル帝国の覇権と朝鮮半島』(山川出版社,2011)
33. 姜在彦『歴史物語 朝鮮半島』(朝日新聞出版,2012)
34. 鄭晋和『朝鮮史年表』(雄山閣,1992)
35. 金 貴東『アジア研ワールド・トレンドNo.236』(日本貿易振興機構アジア経済研究所,2015)
36. 杉山正明監修、田辺希久子訳『チンギス・カンとモンゴル帝国』(創元社,2003)

ご清聴ありがとうございました

Appendix

高麗年表(918年～1235年)

高麗	中国・モンゴル帝国	日本
918年 王権 弓裔を殺し、高麗建国 935年 新羅を征服 936年 後百済を征服 983年 契丹、高麗を攻める 985年 契丹、高麗を攻める 1010年 第2次契丹（遼）の侵入 高麗軍は首都開城を明け渡す 1015年 遼の侵略 1018年 後渤海国滅亡 遼を一時撃退 1020年 高麗と遼の間に講和、朝貢 遼の分暦 1022年 契丹の正朔を奉じる。再び契丹に服属 1145年 朝鮮史書「三国史記」が完成 1218年 モンゴル帝国と同盟 1225年 鴨緑江事件 モンゴルと断交して対立する（→モンゴルの高麗侵攻） 1231年 蒙古（後の元）の侵入が始まる。（第1次高麗侵入） 1232年 蒙古軍第2次高麗侵入 1234年 蒙古軍第3次高麗侵入 1235年 蒙古軍第4次高麗侵入	946年 後晋、大契丹国により滅亡。開封にて国号を大遼に改める 1004年 澶淵の盟 1115年 金を建てる。 1125年 遼、金により滅亡 1126年 靖康の変で宋滅亡 1205年 チンギス・ハーンのモンゴル帝国、西夏に侵攻開始 1211年 モンゴル帝国、金に侵攻開始 1214年 金、モンゴル帝国の圧迫により中都（北京）から開封に遷都 1227年 西夏滅亡 チンギス・カン死去 1232年 三峰山の戦い 1234年 金滅亡	941年 天慶の乱 1017年 藤原道長太政大臣となる 1028年 平忠常の乱 1098年 源義家、昇殿を許される 1156年 保元の乱 1184年 源頼朝、鎌倉に公文所・問注所を置く 1192年 源頼朝、征夷大將軍に任ぜられ、鎌倉に幕府を開く（鎌倉幕府） 1221年 承久の乱 1232年 御成敗式目（貞永式目）を制定する

高麗年表(1238年～1392年)

高麗	中国・モンゴル帝国	日本
1238年 蒙古軍第5次高麗侵入 1247年 高麗、モンゴルへの貢納をやめる 1254年 蒙古軍第6次侵入 1258年 蒙古へ降伏 1259年 モンゴル(クビライ政権)に服属。 1270年 高麗「慈悲嶺」以北の広大な東寧路を奪われる。 1271年 忠烈王クビライの皇女、忽都魯揭里迷失(クトルク=ケルミシ)と婚姻の許諾を得る 1272年 忠烈王 クビライに日本侵略を提言。軍船の造船を申し出る 1274年 日本侵略のため、戦艦大小九百艘を造船する。 1287年 元、高麗に征東行省を設立(後期征東行省)高麗王を長官に任命 1297年 クビライの娘忽都魯揭里迷失死去。元との関係が壊れる 1392年 高麗が減じる	1253年 雲南の大理国、モンゴル帝国に降伏 1257年 ベトナムの陳朝、モンゴル帝国に降伏 1271年 モンゴル帝国のクビライ、国号を大元に改める。首都大都 1274年 元、日本に遠征し失敗 1276年 元のバヤンにより南宋滅亡 1279年 崖山の戦い 1281年 元、再び日本に遠征し失敗 1282年 チャンパ王国、元に降伏 1284年 元、再びチャンパ王国に遠征。その後、チャンパ、陳朝連合軍の抵抗により敗退 1292年 シンガサリ王国に遠征 1294年 クビライ・ハン死去 1361年 朱元璋が南京で大明を建てる	1247年 宝治合戦 1268年 北条時宗が執権に就く 1274年 文永の役 1281年 弘安の役 1285年 霜月騒動 1290年 浅原事件 1293年 平禅門の乱。鎌倉大地震 1305年 嘉元の乱